

# びび通信

ワークセンターびび広報紙

## 第14号

2009.7.24

発行

南丹市社会福祉協議会 美山支所

ワークセンターびび

〒601-0751 南丹市美山町島往古瀬8番地

TEL.0771-75-1660 FAX.0771-75-0829

行ってきました!!

## 南紀白浜一泊旅行

2009年5月31日～6月1日





# 南紀白浜一泊旅行

5月31日～6月1日、和歌山県の白浜温泉まで一泊旅行に行ってきました。美山と日吉と合同で、34名の参加がありました。初めてのリフト付き観光バスはとても乗り心地が良かったです。

一日目は梅干館を見学し、夜には楽しい宴会。二日目はアドベンチャーワールドと、とれとれ市場でのお買い物。たくさんのおみやげと楽しい思い出と共に無事に家路に着くことができました。

## 参加者の感想

楽しかった

アドベンチャーワールド

5月31日から一泊旅行に行ってきた。和歌山は遠かった。バスの中ではほとんど寝ていた。ホテル古賀の井に着いて、部屋に入った。きゅうけいしてお茶飲んだ。お風呂に行った。おけのお風呂があった。熱かった。次の日、はやおきして朝風呂に行ったが、まだ開いてなかった。

アドベンチャーワールドでパンダを見た。パンダがかわいかった。イルカのショーもかわいかった。

次の旅行は部屋を仲いい人と一緒にしてほしい。



美山本所 武内香名子さん

ワークセンターびびの

旅行について

1年ぶりの1泊旅行でみんなわくわくして楽しそうでした。わたしもその中の1人です。今年はびび美山のなかまのみなさんともいっしょです。今年はいじめていっしょで美山のみなもわくわくうきうきだと思えます。日にちは5月31日から6月1日でした。ガイドつきのバス旅行ときいてわくわくしました。ガイドさんの年は20歳から30歳くらいかなと思ってはじめてあった時はがっかりしました。うたもうたってもらえると楽しみにしていたのに1度もつたってもらえずがっ



日吉分所 横井裕子さん

かりでした。ビデオも見せてもらえましたが良かったです。ガイドさんのあんないとトイレきゅうけいもしてやっとホテル古賀乃井につきほつとしました。それから入浴をしてゆつくりねました。朝おきてみんなでバイキングの朝食をたべました。各はんにわかれてパンダやそのほかいろんなどうぶつを見てあるいた。サファリパークを見てまわり、なかでもおサルのおちゃんがかわいかったです。フラミンゴのピンの羽もきれいでした。



# 卓球バレー大会予選通過



6月21日(日)全京都障害者総合スポーツ大会卓球バレーの部が開催されました。90チーム900名の参加があり、びびは美山から2チーム、日吉から1チームが参加しました。びび美山Bチームが予選リーグを見事通過し決勝トーナメントへ。決勝トーナメントでは惜しくも負けてしまいましたが、それぞれに次への目標ができたようです。



7月17日(金)遊youひよしにて障害者ふれあい交流会『こども』を開催しました。友達や恋人が欲しいけどなかなか出会いがない…という声から誕生したこの企画。今回が初めての試みでしたが、参加者からは「楽しかったので毎年してほしい」という嬉しい感想をいただくことができました。

この会で友達の輪が広がり、毎日の生活が少しでも楽しいものになることを願い、また次回も楽しい会を企画していきます。



# お知らせ



南丹市ケーブルテレビの番組  
「ふくしの森」でワークセンター  
びびとそよかぜ美山・そよかぜ日  
吉のお知らせが流れています。

毎月 第 4 木曜日

ぜひご覧ください！！

## 職員異動のお知らせ

### 異動

上園 和子 （新所属 八木支所デイサービスセンター）

## このころ思ふこと

### 施設長雑感

竹内 晶

つい先日、障害者のふれあい交流会を開きました。友達に「ほしー」将来結婚したいなどの利用者さんの思いに伝えるため、出会うの場、交流の場を作ろうと思いました。初めての関係者に声をかけたり、口コミ的な声かけだったので、最終的に65名の参加でとてもよかったと思います。参加者も、普段見られない微妙な笑顔を見せたり、「こんな催しは何回もしてほしい」と喜んでくれました。

他方、建前では反対する人はいませんが、「ご家族が心配される」「火をつけることになる」「などの声も見え隠れし、難しい問題だなと思いました。普通誰でも異性に感心を持ち、恋愛や結婚を考えるのですが、いくつもの失敗や挫折を経験し、そこから学びます。失敗を許されない障害者、周りのしつかりした人がレールを引かないと進めない障害者。私たちの目指す支援ではない様に思います。本人ニーズに基づき支援や自己決定の支援、人権擁護を掲げているのだから。

自然な要求に思えても世の中にはいろいろなハードルがあるというのを改めて認識しました。逆に、ハードルが高くなればなるほど障害者自身が暮らさなければならなりません。ハードル（障害）生活のしづらさは身体的、精神的問題よりも社会が作り出しているのです。ね。その証拠にハードルの高さは社会によって違うのですから。